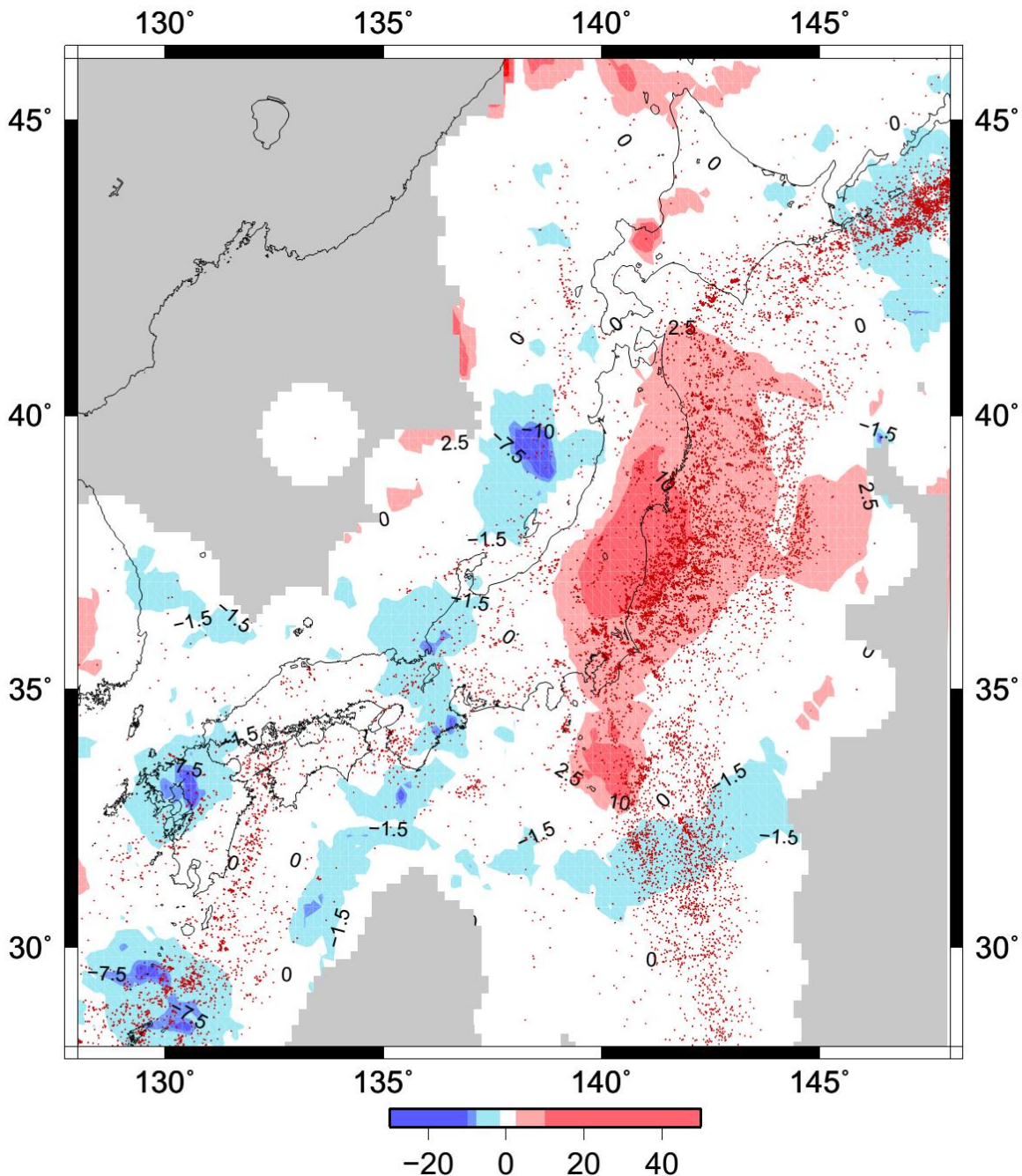


日本列島全体の状況 (2014年2月10日時点の地下天気図)

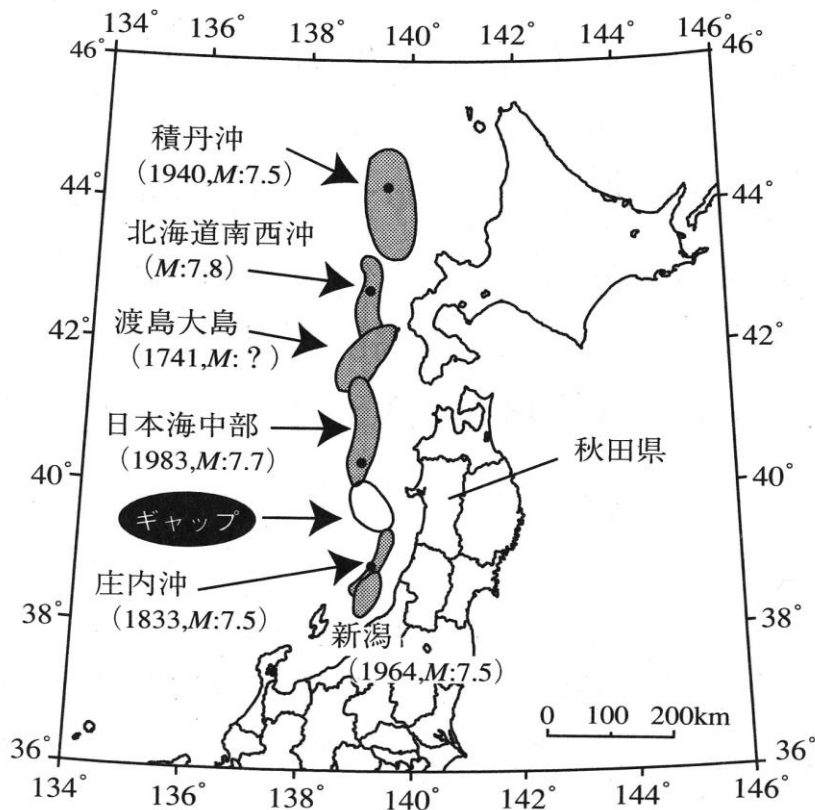
3 1 1以降、日本列島全体の地震発生様式が大きく変動してしまい、広域的なデータを同時に使って解析する事が非常に困難な状態が続いていますがようやく解析が可能となってきました。下記は3 1 1の前に地震活動を最も良く反映した解析パラメータによる解析の結果です。東北地方およびその沖合に赤い領域が広がっているのは、3 1 1の余震活動がまだ極めて活発である事を示しています。また図中の小さな赤い点が解析に使用した地震を表しています。

本図で気になるのは、秋田沖に広がる地震活動静穏化領域（青い領域）と九州北部および沖縄周辺に広がる青い領域です。

またこの図で、灰色の領域は地震活動が存在せず、解析が意味を持たない事を示しています。



秋田沖の青い領域はこれまでお伝えしてきた地下天気図でも一部が見えていました。日本海東縁，特に秋田沖は下図のように長期的な地震活動の空白域となっており，地震研究者が注目している領域なのです（中長期予測）。今後も継続的に監視していきたいと思えます。



<先週からの大雪について>

山梨県ほかで大雪による孤立がニュースとなっています。ここでは別の視点でこの問題を考えてみたいと思います。この大雪で，体育館の屋根が崩落したり，駐車場が壊れたりという被害が報告されています。非常に荒っぽい議論となりますが，

雪 1 m = 火山灰 10 cm と対比できます。山梨県や神奈川県（静岡県も）では，富士山が噴火しますと，10 cm以上の降灰が予想される地域が極めて広く分布しています。

（例えば <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/db/kazan2007/05hazard-map/04hazard-map.html>）

今回の雪はある意味，この地域の建物の火山灰に対する強さについて考えさせられるものだと思います。万が一の富士山噴火の場合には相当多数の建物が火山灰の重さにより被害を受けると推察されます。